地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について　◎:実施済み　○:一部実施　ー:未実施

資料1

計画の体系					実施スケジュール	R6取組状況及び今後の予定	
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO	施策の内容			
基本方針① 多様な手段による効率的・効果的な地域公共交通ネットワークの再構築	目標① 階層的な地域公共交通ネットワークの形成による効率性の向上	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	1	交通事業者との協議を進めながら、基幹交通の運行効率化により生まれたリソースを不便な路線に再配分することでサービスの利便性向上を図ります。また、基幹・幹線・支線交通相互の乗換が円滑に行えるダイヤの見直し等を進めます。	随時実施 運行改善は順次実施	-	・中央バスとの継続的な協議 ・札幌石狩間の新たな幹線交通の検討
		施策2 基幹交通の確立に向けたバス路線再編及びBHLS導入の検討	2	北海道新幹線の「新函館北斗～札幌」間の開業により、札幌圏における交通状況の大きな変化が予測されており、本市においても経済・観光交流拡大に向けて北海道新幹線からの二次交通の充実が必要と考えており、現在整備を進めている札幌駅交通ターミナルへの接続についても札幌市をはじめとした関係機関との協議を行いながら検討します。	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	-	・北海道新幹線の進捗状況を把握しながら、札幌市をはじめ関係者との協議を進めていく。
		施策3 AIオンデマンド交通『いつモ』の本格運行	3	本運行の利便性・持続可能性・生産性を向上していくため、多様な関係者と『共創』を図りながら取組を推進していきます。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎	【市内・通勤デマンド】 市内交通事業者と「石狩湾新港地域公共交通サービス推進協議会」を立ち上げ、官民連携でデマンド事業を進める体制を構築した。
		施策4 バス交通空白地における移動手段の確保	4	旧石狩地区における生振地区以外のバス交通空白地については、現状タクシー以外の移動手段が無い状況であり、福祉輸送との連携可能性や、地域住民自らが運行の担い手となる厚田区の様なサポート交通の導入可能性について、地域住民との意見交換を行いながら検討します。	随時実施	-	各地区の地域特性を踏まえた上で、地域住民及び交通事業者とも課題感を共有しながら、適切な交通手段について検討を進める。
	目標② 多様な交通手段の活用による持続可能な移動手段の確保	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	5	高齢化社会の進展や障がい者の社会進出に対応するため、公共交通のバリアフリー化を推進します。	随時実施 運行改善は順次実施	○	【市内・通勤デマンド】 R7よりバリアフリー車両での事業化を行った。
			6	市民が安心して生活できる持続可能な地域公共交通サービスを提供するため、利用者ニーズを把握しながら利便性向上に努め、国や北海道による補助の活用も想定しながら、現行の路線バス・自家用有償旅客運送の維持・確保を図ります。	随時実施 運行改善は順次実施	○	現行の路線バス・自家用有償旅客運送の維持・確保を図った。
		施策3 AIオンデマンド交通『いつモ』の本格運行	7	路線バスに代わる石狩湾新港地域への効率的な新たな交通体系の確立及び市街地の周遊性向上を目的に現在実証運行を実施しているAIオンデマンド交通『いつモ』について、実証運行の結果を踏まえシステムや運行方法の改善を検討しながら早期の本格運行を目指します。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	○	【通勤デマンド】 ・Ｒ７は事業スキームを変えて実証（R8本格運行目指す） ・R7利便増進計画を策定予定 【市内デマンド】 R7よりタクシー営業車を活用した新たな事業スキームで本格運行
			8	令和6 年度（2024 年度）は引き続き実証運行を続け、令和7 年度（2025 年度）以降の本格運行を目指します。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	○	【通勤デマンド】 ・Ｒ７は事業スキームを変えて実証（R8本格運行目指す） ・R7利便増進計画を策定予定 【市内デマンド】 R7よりタクシー営業車を活用した新たな事業スキームで本格運行
		施策4 バス交通空白地における移動手段の確保	9	本市において広域に存在するバス交通空白地に対して、多様な移動手段（タクシー、乗合自動車、スクールバス、福祉輸送等）を活用して移動手段の確保に努めます。	随時実施	-	R7に市内の交通モード（ヒト・モノの移動）に関して、全庁的な調査を実施し、新たな移動手段の可能性について検討を行う。
			10	浜益区については、現在乗合自動車（浜益厚田間・浜益滝川間）やスクールバス一般混乗により移動手段を確保している状況であり、浜厚線の路線バスとの接続性と区内移動の利便性向上、滝浜線の復路便の乗降場所改善など運行方法の改善を図りながら現在の移動手段の維持確保に努めます。見直しが実施された際には、地域住民や来訪者が理解しやすいパンフレット作成に努めます。	随時実施	○	【浜益デマンド】 地域内のヒト・モノの移動を持続的に行うため、R7からの浜益区の交通再編について検討を始めた。
			11	厚田区については、道の駅「あいろーど厚田」以北や国道231 号沿線以外はバス交通空白地となっており、スクールバス一般混乗（発足線）やNPO 法人あつたライフサポートの会による施設や最寄りバス停への送迎により移動手段の確保がなされている状況であるため、運行方法の改善や持続可能な運行体制の確保を図りながら現在の移動手段の維持確保に努めます。	随時実施	-	厚田区の地域特性を踏まえた上で、地域住民及び交通事業者とも課題感を共有しながら、適切な交通手段について検討を進める。
			12	生振地区については、現在AI オンデマンド交通『いつモ』実証運行の市内オンデマンドの対象エリアとしており、本格運行を目指すことでタクシー以外の新たな移動手段の確保を目指します。	随時実施	◎	【市内デマンド】 本格運行においても生振エリアを対象エリアとした。

地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について　◎:実施済み　○:一部実施　ー:未実施

資料1

計画の体系					実施スケジュール	R6取組状況及び今後の予定	
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO	施策の内容			
基本方針② 誰もが便利に利用出来るシームレスな利用環境の創出	目標③ 円滑に乗換・待合可能な交通結節点の創出	施策5 交通結節点の創出に向けた検討	13	多様な交通手段による地域公共交通をシームレスに接続するためには、新たに円滑な乗り換えを可能とする交通結節点が必要となりますが、現状として交通結節点として機能しているのは路線バスと浜益厚田間乗合自動車が接続する道の駅「あいろーど厚田」のみとなります。 そのため、現状で複数の系統が接続し、乗換が多く発生している市役所周辺や石狩湾新港地域へのアクセスを考慮した花川南地区や都市機能施設が集中する花川北地区などで交通結節点の創出を目指します。	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	○	【通勤デマンド】 ・R7からの実証では、新港西エリアの発着点としてラルズマート花川南店を活用させて頂くことから、株式会社ラルズとR7.3に包括連携協定を結び、交通に関して更なる協力体制を構築した。
			14	交通結節点の創出にあたっては、新たなバスターミナルとしての整備だけでなく、既存施設（商業・医療等）との連携によって円滑な乗換、快適な待合が出来る環境整備を目指します。	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	○	【市内デマンド】 市内商業施設（ラルズ・イオン）及び医療機関（石狩病院）とデマンド事業に関して協力体制を構築し、施設内に待合スペースの設置等の協力を得た。
			15	現在実証運行を行っているAI オンデマンド交通『いつモ』では、地域との共創として、『ラルズマート花川南店』、『イオンスーパーセンター石狩緑苑台店』、『石狩病院』と連携し、敷地内への車両の乗り入れ、施設内での待合などを行い、利用者の待合環境向上を図っています。	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	◎	【市内デマンド】 市内商業施設（ラルズ・イオン）及び医療機関（石狩病院）とデマンド事業に関して協力体制を構築し、施設内に待合スペースの設置等の協力を得た。
	目標④ 利便性の高いダイヤ設定や運行情報発信の充実化	施策1 地域公共交通サービスの維持確保及び改善	16	本市が事業主体となって運行する自家用有償旅客運送については、幹線交通との円滑な接続などの運行方法の改善について検討し、わかりやすいパンフレット作成などにより誰でも利用しやすい環境整備に努めます。	随時実施 運行改善は順次実施	-	R7に市内公共交通を取りまとめた冊子を作製予定
		施策2 基幹交通の確立に向けたバス路線再編及びBHLS導入の検討	17	石狩庁舎前から花川南3 丁目通を経由して地下鉄麻生駅及び札幌ターミナルへと結ぶ路線は、現在複数の系統が重複していることから、ダイヤ等の再編による運行の効率化について検討します。	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	-	中央バスとの継続的な協議
		施策3 AIオンデマンド交通『いつモ』の本格運行	18	交通事業者との協議を進めながら、サービスエリアの拡大についても検討します。	R6～R7：実証運行 R7～：本格運行	◎	【市内デマンド】 事業エリアの見直しを行い、花川・樽川の幹線バスエリアから、「B&G海洋センター」「樽川調整区域」に行くことを可能にした。
		施策5 交通結節点の創出に向けた検討	19	交通結節点の創出にあたっては、新たなバスターミナルとしての整備だけでなく、既存施設（商業・医療等）との連携によって円滑な乗換、快適な待合が出来る環境整備を目指します。	R6～R8：調査検討 R8～R12：実施	○	【市内デマンド】 市内商業施設（ラルズ・イオン）及び医療機関（石狩病院）とデマンド事業に関して協力体制を構築し、施設内に待合スペースの設置等の協力を得た
		施策6 デジタル技術を活用した公共交通に関する情報発信機能の強化	20	わかりやすい情報提供を実現するにはデジタル技術の活用が必要不可欠であり、目的地までの複数の手段による移動を1 つのアプリで情報提供する機能を充実していきます。将来的には経路検索だけでなく、予約や決済までを1 つのサービスとして提供する石狩版MaaSを目指します。	随時実施	○	【市内・通勤デマンド】 R7.12より国内ベンダーのシステムに変更。操作性の向上及びランニングコストの低減を図った。 【浜益デマンド】 R7にデマンドシステム導入予定
			21	交通結節点においては、乗り換えるバスの位置情報等が誰にでもわかりやすく見ることが出来るデジタルサイネージ（電子掲示板）の設置についても導入を検討します。	随時実施	-	交通結節点の環境整備と合わせて、検討を進めていく
			22	北海道中央バス㈱石狩市内路線の運行情報を石狩市公式LINE にてプッシュ通知する取り組みを開始しており、取り組みの継続及び充実を進めていきます。	随時実施	○	R6に中央バスHPにて運行（遅延）情報をオンタイムで掲載するサービスを始めたことから、石狩市公式LINEとの情報連携を行った。

地域公共交通計画の進捗状況及び今後の予定について　◎:実施済み　○:一部実施　ー:未実施

資料1

計画の体系					実施スケジュール	R6取組状況及び今後の予定	
基本方針	目標	目標を達成するための施策	NO	施策の内容			
基本方針③ 地域特性に応じた公共交通利用促進策の推進	目標⑤ 公共交通を利用する市民意識の醸成	施策6 デジタル技術を活用した公共交通に関する情報発信機能の強	23	現在AI オンデマンド交通実証運行『いつモ』で運用しているスマートフォン用アプリでは、目的地に対して路線バスの情報含めて経路検索が可能となっており、機能の充実や市民への利用方法等の周知を推進します。	随時実施	○	【市内・通勤デマンド】 R7.12より国内ベンダーのシステムに変更。操作性の向上及びランニングコストの低減を図った。
		施策7 公共交通の利用促進に向けた取組の推進	24	地域公共交通の維持に向けた市民の意識醸成《“住民が公共交通を利用して守る”や“公共交通を利用したい”》を図るため、学校・事業所・特定地区及び団体等を対象とした地域・世代に応じた利用促進策（乗り方教室、体験乗車会、意見交換会、広報誌による啓発 等）を実施し、利用しなければ存続出来ないといった危機感を地域住民とも共有し、公共交通への転換を促していきます。	随時実施	○	【R6実績】 町内会単位での説明：２件 社会福祉法人への説明：1件 新港地域企業への説明：６件 地元不動産会社への説明：1件
			25	各種施設（公共施設、観光施設、商業施設等）と連携し、地域のイベントなどでの利用促進に向けた企画などについて検討します。	随時実施	-	利用促進のコンセプトを明確にして、ステークホルダーとなる事業者と協議を進める。
			26	公共交通の利用増加による持続性向上や低炭素社会の実現に向けて、行政や民間企業などでのノーカーデーの取組を実施します。	随時実施	-	R7は環境所管と共同で取組を検討
基本方針④ 地域公共交通の担い手確保に向けた取組の推進	目標⑥ 担い手確保による移動手段の維持確保	施策2 基幹交通の確立に向けたバス路線再編及びBHLS導入の検討	27	バス運転手の不足が深刻化している中、ダイヤ等の再編による効率化だけでなく、輸送力の向上に向けて、BHLS（バス・ハイレベルサービス）の導入について検討します。	R6～R11：調査検討 R11～R12：実施	-	・中央バスとの継続的な協議 ・札幌石狩間の新たな幹線交通の検討
		施策8 公共交通の担い手確保に向けた取組の推進	28	多様な交通手段（路線バス、タクシー、自家用有償旅客運送）において、運転手の人手不足及び高齢化が深刻化しています。そのため、担い手確保に対する対策として、関係機関と連携しながら様々な施策（職業体験、免許取得支援、説明会、広報活動等）を推進します。	随時実施	○	【浜益デマンド】 R7から交通事業に従事する地域おこし協力隊の募集を行い、２名の隊員を確保した。
			29	本市としては、市が主催する就職説明会への交通事業者の参画や広報誌を通じたPR 等を行っており、これらの取り組みを継続・充実を図っていきます。	随時実施	○	・合同企業就職説明会への交通事業者の参加
			30	バス交通空白地においては、地域住民自らが運行の担い手となる厚田区の様なサポート交通の導入可能性について、地域住民との意見交換を行いながら検討します。	随時実施	-	各地区の地域特性を踏まえた上で、地域住民及び交通事業者とも課題感を共有しながら、適切な交通手段について検討を進める。
			31	近年、全国各地で運転手不足に対する解消策として自動運転による地域公共交通サービスの実証実験が行われております。直ちに本市において自動運転による移動手段の確立は難しいと考えておりますが、動向を注視して将来的な活用についても検討を進めます。	随時実施	-	自動運転先進自治体にヒアリングを行いながら可能性を検討